

意見 水道料金審議会委員からの代表的な意見

意見・コメント（抜粋）

●県内の同規模事業体との比較というのは、考え方だとかデータを見ることに必要だと思いますが、県内で何位だとかあまりそこは気にしなくても、参考程度にしておいた方がいいと思います。周り全体が成長しているような、高度経済成長期の水道事業であれば周りを見て、周りと同様にというのはあると思いますが、もうこれからは地域ごとに人口の減り方であるとか、人口の分布、産業の分布、地域によって様々な特性がありますので、基本的には自分たちの経営計画がやはり一番大切なところだと思います。

水道行政が厚生労働省から国土交通省に移りましたが、水道料金の状況を踏まえて補助金の対象にするのかしないのかといったような考え方も示されています。例えば、給水人口5万人以上の事業体で全国平均の水道料金を下回っていると補助金の対象外にする、そんな考え方も出てきています。国からすると国にもお金がないので、水道料金が安くてお金が足りないから国に頼る事業体には補助金を出さない、そういう考え方ようです。そういう意味からすると、どうやって北名古屋市と豊山町の住民の方に北名古屋水道企業団の事業活動を水道料金という形で支えていただくのか、そういう考え方が一番大事なことだと思います。

意見 水道料金審議会委員からの代表的な意見

意見・コメント（抜粋）

●資金残高15億円の考え方はとても重要だと思います。例えば能登半島地震で輪島市は1月1日に地震が起こり、その後全市民水道料金免除とし、さらに9月に豪雨災害があり、また全市民水道料金免除したため、今年度輪島市上下水道局は料金収入ゼロです。

●日本が年2%経済成長するのであれば、水道料金も2%上がっていかないと本当はいけません。

料金を上げずに経営努力でなんとかしてきた、それはあると思います。まず国が経済成長するのであれば、それを支えるインフラ、水道料金はそれに合わせて上がっていかないと、本来はおかしい話だとは思いますが。

料金改定について、とても大事だと思うのはやはり信頼関係だと思っています。例えば、更新計画を見直した時にいろんな費用がいらなくなる場合には料金を下げますよと、そういう改定が必要なのかと。上げる時は上げる、下げる時は下げる、住民の方との信頼関係が必要だと思っています。適正な料金収入を皆さんに負担していただき支えていただく。そういった考え方をどうやって反映させていくのか、とても大切だと思います。